

# 子どもたちの明日

## Children, Our Future

2017年12月

# 122号

### 目次

- ・地域幼稚園へ保育教材の研修と配布  
全国304か所に 1頁
- ・村の幼稚園調査から見た農村の暮らし 2頁
- ・藍染め作品の展示会開かれる 4頁



保育教材の具体的な使い方を指導(オドームエンチェイ州にて)

1

## 地域幼稚園へ保育教材の研修と配布 全国304か所に

近年、カンボジア政府は幼児教育に力を入れ、農村部では小学校併設幼稚園、地域幼稚園、家庭内親教育プログラムを用いて、恵まれない環境にある子どもの幼児保育の機会の拡大を図っています。しかし人材や資金不足から、3歳から5歳児の子どもが就学前教育に参加できる割合は37%と低く、小学校の学びに影響を及ぼしています。小学校の就学状況を見ると、中退率や留年率は農村と都市で差が出ています。また幼児教育を受ける機会がなく、必要な準備が整わない前に小学校に入学する子どもが多く、カンボジアの小学校1年生の留年率、中退率は、他の学年より高くなっています。

カンボジア政府は2014年から3年間で、全国に1000か所の地域幼稚園を開設しました。カンボジアの教育省の要請のもと、当会は2014年、2015年と全国18州、681か所の地域幼稚園に、保育教材の研修と配付を行ってきました。

今年は、全国20州304か所の地域幼稚園に研修と保育教材の提供を行うことができました。9月、10月には、保育者を対象に保育教材の目的、使い方などの研修会を全国6か所の会場で実施し

ました。研修会に参加した公立地域幼稚園の保育者、郡や州の幼児教育担当者の声をお届けします。

ホイ・ベツ先生(ストゥントレン州サマキ地区キロ8村)「たくさんの教材を頂いて、とても嬉しい。こんな教材見たことがない。市場でも買えないし、子どもは絵本やパズル、人形が大好きです。教材があったら教えやすいし、子どもも理解しやすいと思います。特に絵本は絵が大きくて、色が綺麗です。頂いた人形はクラスに4体しかないので、子どもが喧嘩しないで使えるよう教えます。

現在、家の軒下で教えているので、狭い子どもの遊び場がない、ちゃんとした幼稚園の教室がほしい、教材もそろえたい。子どもが通いたい幼稚園を作りたい。子どもや地域の人たちに尊敬される先生になりたいです。

イム・スゥン先生(スバイリエン州ムンチェイ村)「詩の本は手洗いや掃除、家の手伝いなどの衛生教育の詩が入っているので、子どもが自然に覚えると思います。教材を使う時間を毎日のカ

リキュラムに入りたいです。教材を見ただけで子どもたちいろいろな遊び方に頭に浮かびました。CYK(幼い難民を考える会)プロンペン事務所のトレーナーが詳しく説明してくれましたので、もっと理解でき、使い方が良く分かりました。」

ホゥン・プラネターさん(ストゥントレン州の幼児教育事務所長)「地域幼稚園は遠隔地に住んでいる子どもにも幼稚園に通うチャンスができ、小学校に行く準備が出来るのでとても大事。また子どもだけでなく、保護者にも教育の大切さを教えることができます。地域幼稚園は、地区評議会が中心になって管理しているので、地域の人たちが自分たちの責任を理解するようになる。自分たちの子どもや孫の健康、育つ環境を良くして行こうという気持ちが出来てくる。」

チュ・サオブアンさん(コンボンチャム州コンミアス郡担当者)「幼稚園の先生が長く働けるように保育者の能力強化、教材製作、保育者の資料作り、地域の方々と保育者の関係づくりなどを支えていきたい。」



2015年の国連総会で採択された「持続可能な開発目標 SDGs; Sustainable Development Goals」は「誰ひとり取り残さない」を理念として、国際社会が2030年までに貧困や不平等を撲滅し、地球を守り、全ての人が平和と豊かさを享受できる持続可能な社会を実現するための指標として設定されました。貧困をなくす目標については、1日1.25ドル未満で生活する極度の貧困、経済的な問題だけでなく教育や就業機会を得られないことや食糧、水、教育、病院などの必要なサービスがうけられないことも含め、あらゆる形の貧困を終わらせるとしています。教育の分野においても「2030年までにすべての子どもが男女の区別なく、質の高い乳幼児のケアと発達および、就学前教育に参加することにより、初等教育を受ける準備が整うようにする」ことが明記されています。

当会はカンボジアのより恵まれない子どもたちのため、農村部で村の幼稚園開設・運営と地域での持続的な活動を進めていきます。安心して学ぶことのできる環境の整備、保健衛生の改善、保育者の育成、保護者・地域の運営委員会の幼児教育への理解と協力を得て、地域の人たちが主体になって進める幼児教育の充実に力を注いでいきたいと考えています。

### 村の幼稚園の開設前の事前調査

高層ビルの建設ラッシュ、車の渋滞、新しいショッピングモールと、近年大規模に開発の進んでいる華やかなカンボジアの首都プノンペンの状況とは裏腹に、地方の農村では今も厳しい生活環境の中で多くの人たちが生きています。幼い子どもたちの育つ環境について今年も村の幼稚園の候補地の調査を行いました。

調査対象地はコンポンチュナン州の4郡です。当会は、コンポンチュナン州ロリアビア郡で、2003年から公立幼稚園3か所の開設運営に協力した経緯があり、今回、同州の教育局から村の幼稚園開設の要請を受けて9か所の地域の調査を行いました。7、8月に調査したロリアビア郡およびコンポントラッ郡の43家庭の訪問調査から見えてきた農村の暮らしぶりを報告します。

ロリアビア郡プロスネップ村、チョー村は、プノンベンから約3時間のところに位置する村です。国道から横道に入ると、それまでとは景色が一変します。空き地と森が続き、家はポツポツと点在しています。15キロほど入る道は赤土で、雨季には泥道になり車両の通行が困難になります。村の中心地の小学校の周りがある集落は高床式の木造の家もありますが、椰子の葉で作られた家も多くあります。

ロリアビア郡スバイチュルム地区には22村あります。そのうちのクロプーブル村は、プノンベンから車とボートを使って約3時間の距離にある小さな農村です。トンレサップ川流域にあるこれらの村は乾季の時には稲作や野菜栽培などができますが、雨季には川が増水しほとんどの土地が冠水します。そのため、雨季になると村人は学校、診療所、市場へ行くにもボートで移動します。

### 親の職業と教育

家庭訪問した43家族のうち、ロリアビア郡プロスネップ地区の2村の家庭の親は、ほとんどが農業に従事しています。それ以外の仕事は銀行員、村外での建設労働者、炭作り、小商い、小規模養豚、養鶏です。中には、韓国とタイへ出稼ぎに出ている親が3名いました。一方ロリアビア郡スバイ

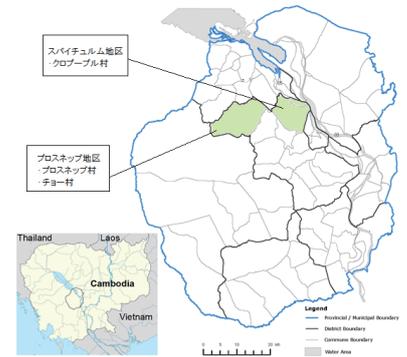


Fig. Source: adapted from MEG, 2016 and NordVard West, 2009

チュルム地区クロプーブル村や近隣の村では、半数以上が農業のかたわら漁業を生業としています。建設労働者、プノンベンやコンポンチュナン州都の縫製工場で働く家族もあります。収入が不安定なため、村人の中には都市部の工場や建築現場へ出稼ぎに出る人も増えています。初等教育を修了していない人が得られる仕事は危険、かつ体力的に辛い仕事が多いため村人は教育の大切さを実感していると言います。

出稼ぎに行く村人は、年に数回、または月に1回しか家に帰れず、タイや韓国への出稼ぎ労働者だと長期にわたり家を空ける親も少なくありません。幼い子どもは祖母や年上の兄弟に預けられ、一日を過ごすのが現状です。

親の教育に関しては、高卒の親が1名、中学卒業・中退と、残り75%は小学校卒業・中退です。学校に全く行ったことがない不就学の親も4名いました。訪問した43家族の親の識字率は約65%で、カンボジアの識字率74%より低くなっています。調査した農村のように読み書きができない親が多い環境で育つ子どもは、家庭で文字や絵本に触れる機会は全くありません。小学校に入学しても中退してしまう子どもは、読み書きや計算など生活に必要な基礎的な技術を身に付けられないまま、大人になり、仕事を選べず厳しい生活を送るといって、貧困の連鎖に陥りがちです。



小さな子どもも、雨季になるとボートを漕いで買い物に行き、家の手伝いをしています。

### 安全な飲み水の確保とトイレ

トイレのある家は13家族の30%のみで、川に囲まれたクロププル村では川で用を足すとのことでした。飲み水に関しては、両地域とも簡易な浄水器を使っている家が多く、雨水や沸した水を飲用水としている家もありました。ミネラルウォーターを購入しているのは2家族でした。ボウフラが湧かない薬を入れている家や、中には川の水をそのまま飲んでいる家族も3軒ありました。

### 家族の収入と借金

月収として定期収入を得られているのは6家族で、農業、豚の飼育、ポンペンの工場、銀行勤めなどで月に100ドルから400ドルの収入です。年間収入があると答えたのは、13家族で農業、土地代、野菜、大豆、米の販売等で年間平均625ドルの収入です。約半数の家庭が魚とり、建設労働や稲刈り等で1日1.25ドルから5ド

ルの日雇いで得る収入です。カンボジアの2014年度の国民総所得は一人当たり1,020米ドル（世界銀行統計）ですが、調査地の平均家族数は5.8人で、この地域の収入はカンボジアの平均収入より大幅に低いのが分かります。

両地域の半数余りの家族はなんらかの借金を抱えています。肥料の購入、病気治療、子豚の購入、ボート、バイクや農機具の購入、漁業の道具、家の建設などに平均500ドルで、1000ドルかそれ以上の借金のあるのは8家族でした。中には、10,000ドルの借金のある家族もありました。(1ドル約113円)

### 心配なこと

心配なこともたくさんあります。借入金の利息が高く、収入から元本と利息を払うと残りのお金で家族が食べて行くのが厳しい、ボートに寝泊りして具を取りに行くので、雨や風の強い時には事故がないかと心配。蓄えがないので、子どもの病気、出稼ぎに行つて

いる家族や子どもの怪我や事故などの心配はつきません。その他、野菜作りの農薬散布の仕事をしているが、疲れやすく、倒れたことがあるという家族が2軒、出産費用がないという切実なケースもありました。

(上)村で使われている簡易浄水器（チョー村）  
(下)椰子の葉で作られた家が多い。家の前には、雨水をためておく甕が並んでいる。(プロスナップ村)





(左) コンボンチャム州アンコールバーン村の藍染めグループも展示会の開会式に参加した。(右上) 絹糸の濃淡を染める藍染グループのメンバー(アンコールバーン村)  
(右下) 藍染めグループの染めたスカーフも展示された。

10月5日から11月7日まで、プノンペンのインターコンチネンタルホテルのインサイダーギャラリーで、藍染め作品の展示会を開催しました。カンボジアの伝統的な藍染めの織物を広く紹介し、技術の保全と伝承を支える目的で開かれたものです。CYRが長年にわたり取り組んできた藍染め技術研修事業の成果として同ホテルのご協力で実現しました。

コンボンチャム州アンコールバーン村には、ポルポト時代にも藍で染めたスカーフを製作していたという年配の女性

もおり、泥藍づくりや藍染めが盛んな地域でした。泥藍づくりを行う村人たちは、質の良い泥藍作り、きれいな藍色を染めたいと研修を重ねてきました。毎年、メコン川沿いの肥沃な土地に藍を育てています。7月、8月には、毎日500kgの藍の葉を発酵させ泥藍を作るといふ、大変な作業を約1ヶ月続けます。今年も、自分たちで藍染めのスカーフを織ることができるようになりました。

展示会の開会式にはアンコールバー

ン村の女性たちも参列し、自分たちが染めたスカーフや絣地が立派な会場に展示されているのに感激していました。来場者の皆さんが展示された作品をゆっくりご覧になり、感心を示されていました。藍染めの工程について来場者から質問を受けたサオ・ソポアンさんは、「改めて自分たちの仕事は伝統を担う大事な仕事で、自信と誇りを感じた。新しい作品作りへの意欲が湧いてきた。」と話していました。

## CYR 情報

### 寄付金控除証明書の送付

いつも暖かいご支援を賜り、ありがとうございます。  
寄付金控除証明書の発送は、1月下旬を予定しています。お手元に届くまでもう少しお待ちください。

年末年始は、下記の通りお休みさせていただきます  
平成29年12月29日(金)～平成30年1月3日(水)

会費お振込み・活動へのご支援は、下記までお願いいたします。

郵便振替 00110-8-36227  
三菱東京UFJ銀行 六本木支店(普通) 1351747  
特定非営利活動法人幼い難民を考える会

## 子どもたちの明日 122号

発行日：2017年12月13日 発行者：廣戸直江

特定非営利活動法人幼い難民を考える会

### 東京事務所 (CYR)

〒110-0016 東京都台東区台東1-12-11 青木ビル2A  
TEL: 03-6803-2015 FAX: 03-6803-2016  
Email: info@cyr.or.jp URL: <http://www.cyr.or.jp/>

### プノンペン事務所 (CYK)

#170, St.63, Boeung Keng Kang I, Khan Chamkarmorn,  
Phnom Penh, Cambodia  
TEL: (+855) 23 210849 FAX: (+855) 23 210849  
Email: info@cyk.org.kh  
URL: <http://www.caringforyoungkhmer.org/>

幼い難民を考える会 (CYR) は認定 NPO 法人です。  
ご寄付は税制優遇措置の対象となります。